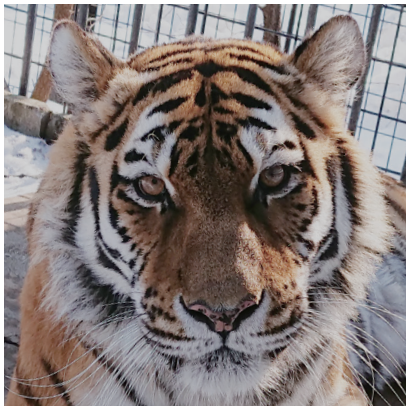
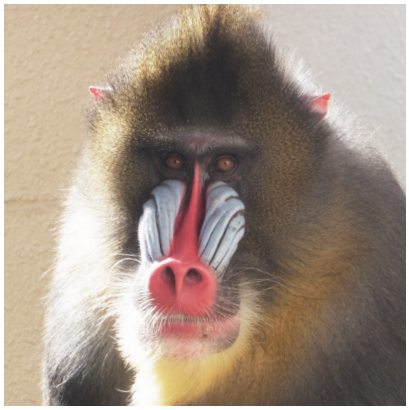




おびひろ動物園のなかま

Animals at Obihiro Zoo

2023

国立大学法人 北海道国立大学機構
帯広畜産大学

帯広市生涯学習部
おびひろ動物園

世界の動物
Animals around The World

トラ

アジアの寒帯から熱帯に広く分布していましたが、森林伐採や開発による生息地の破壊、乱獲などにより生息数が減少している絶滅危惧種で、多くの生息地で保護対策が行われています。ライオンが開けた草原を好むのに比べ、トラは森林や草丈の高い薮を好みます。

おびひろ動物園で飼育しているのは、最も北に分布するアムールトラという亜種で最大のネコ科動物です。国内のほかの動物園では、インドに生息するベンガルトラや東南アジアのスマトラトラを見ることができます。

アムールトラのマオ

ライオン

かつてはアフリカから中東、インドにかけて広く分布していましたが、今ではアフリカの赤道周辺とインドのごく一部に生息しています。ほとんどが単独行動の大型ネコ類（ヒョウ属）にあって、唯一プライドと呼ばれる母系集団の小さな群れで生活しています。

おびひろ動物園ではオス1頭を飼育しており、放飼後すぐ外展示場を歩き回ってマーキングをする様子が見られます。尻尾を上げてお尻を向けたらおしっこが飛んでくる合図なので気を付けてください。

トレーニングの様子

ライオンのヤマト

ホッキョクグマ

野生のホッキョクグマは、冬は氷の上で生活し、呼吸のため氷の穴に顔を出すアザラシを狩って食べています。近年の地球温暖化により生息数が減少しており、絶滅が危惧されています。体毛は白く見えますが、透明でストローのような構造を持ち、空洞部分に空気をためることで高い保温効果があり、寒いところでも体温を保てます。

おびひろ動物園では、夏はプールで、冬は雪で遊ぶ姿が見られます。おもちゃとして湯たんぽやポリタンクなどを寄付でいただいており、そのほか使用済みの消防ホースなども利用しています。

湯たんぽで遊ぶアイラ

世界の動物
Animals around The World

アメリカバイソン

牧草を食べるアメリカバイソンのグラン

北アメリカの草原地帯に壮大な群れで生活しており、19世紀初期にはアメリカ全土に数千万頭のアメリカバイソンがいましたが、乱獲により1894年には20頭まで減り、絶滅寸前になりました。現在では個体数がかなり回復してきています。

おびひろ動物園で飼育しているアメリカバイソンは、2021年4月に帯広商工会議所から寄贈されたもので、同時に贈られた「アメリカバイソンの歴史から学ぶ」と題した案内パネルには野生動物を大切にすることの意義が示されています。

キリン

アフリカ中部から南部にかけて生息しています。オスの平均体高は5mにも達し、体重が1tを超える個体もいます。約50cmにもなる舌でマメ科のアカシアなどの葉を巻き取って食べています。ウシ科であるため胃を4つ持ち、反芻をしている姿が見られます。

おびひろ動物園では3頭を飼育しており、蹄が伸びやすい個体にはハズバンダリートレーニングによる削蹄を行っています。見かけた際は静かに見守ってください。

ペアで歩くユルリ（左）とメープル（右）

ハズバンダリートレーニングによる削蹄

マンドリル

マンドリルのキーボー

中央アフリカ西部の森林地帯に生息し、主に地上で生活しますが、夜は木の上で休んだり、樹木をジャンプして移動したりすることもできます。オスはがっしりした体つきの大型のサルで、体重はメスの倍以上の30kg近くになります。野生下での餌は果実、葉や草など基本的に植物質ですが、シロアリなどの昆虫も食べます。通常は1頭のオスと複数のメスからなる20頭程度の群れで生活し、オスの派手な色彩は暗い森の中で仲間を導く目印となります。飼育下では40年以上生きた記録もあります。

家畜と愛玩動物
Domestic Animals & Pet Animals

ヤギとヒツジ

ヤギもヒツジもアジアで野生種から家畜化された動物です。家畜化はイヌよりは遅く、ウシ、ウマ、ブタよりは早かったと考えられています。ヒツジは300品種以上存在し、世界中で11億頭以上飼育されています。ヤギは200品種以上存在し、4億頭以上が飼育されており、一部野生化している地域もあります。おびひろ動物園で現在飼育中のヒツジは、短毛種で顔の黒いサフォーク種と長毛種のテクセル種です。ヤギは置戸町やおびひろ動物園生まれで、すべて雑種です。

放牧中のヒツジ

ヤギは高いところが好き

ウサギ

野生のアナウサギを家畜化したものをカイウサギと呼びます。おびひろ動物園ではミニウサギとネザーランドドワーフという品種を飼育しています。野生下では群れで暮らしていましたが、気が強い性格や相性の問題もあるため、ペットとして複数頭を一緒に飼育するのは難しい動物です。一見おとなしく見えますが、感情表現が豊かで運動が好きです。鳴くことはほとんどありませんが、喜びや怒りを体で表現します。ウサギは羽（わ）と数えるのが一般的です。

隅に集まるミニウサギたち

様々な品種のモルモット

モルモット

南米に生息するテンジクネズミ科の野生種を家畜化した種です。本来は夜行性で、群れで暮らします。性格は温和で好奇心旺盛ですが、怖がりでストレスに弱い動物です。仲間内で鳴き声を交わすことでコミュニケーションをとっており、人間に対しても自分の気持ちや要求を鳴いて表します。様々な毛色や毛質のバリエーションが魅力です。動物園では5品種を飼育しており、毛色も性格も個性豊かなモルモットたちを身近に観察できます。モルモットのふれあいも行っており、動物への接し方やいのちの大切さを学ぶことができます。

とかちの動物
Wildlife in Tokachi

エゾタヌキ

エゾタヌキはおびひろ動物園の人気者

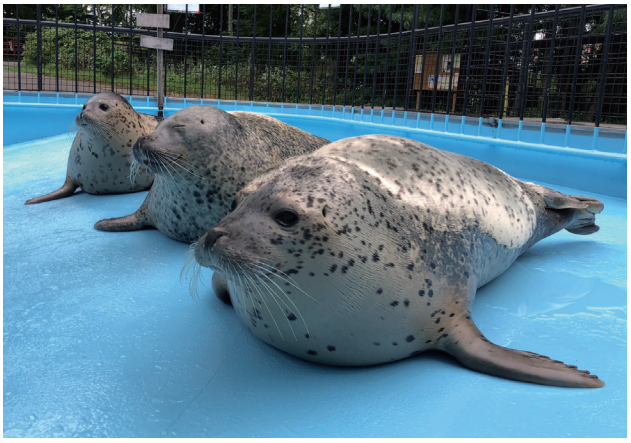
タヌキは北海道から九州まで分布していますが、北海道に生息するものは、亜種エゾタヌキとして本州以南のホンドタヌキと区別されます。エゾタヌキは、頭骨の構造がホンドタヌキと少し異なり、特に歯の構造からエゾタヌキの方が肉食傾向が強いと考えられています。また、エゾタヌキは冬眠しませんが、厳冬期に体の活性を下げて「冬ごもり」をします。おびひろ動物園のエゾタヌキは5頭の兄弟で保護されましたが、うち3頭は、繁殖などのために現在は円山動物園、旭山動物園にいます。

キタイイズナ

イイズナはヨーロッパ全域、アジア北部、北米など北半球北部に広く生息し、最も広い分布域をもつ哺乳類の１種であり、世界最小の食肉類でもあります。北海道ではキタイイズナという亜種が森林・平野部などに広く生息し、人家のそばにもしばしば出現します。しかし、すばしっこく捕獲等も難しいため、日本ではほとんど研究されていません。気性が荒く、自分よりも大きな獲物にも襲い掛かるほど獰猛です。主な餌はネズミ類ですが、リスやノウサギ、鳥の巣なども襲います。

飼育室でくつろぐキタイイズナの雪月
（現在キタイイズナは飼育しておりません）

ゴマフアザラシ


ゴマフアザラシのファミリー

ベーリング海やオホーツク海などに生息し、冬になると流氷と共に北海道周辺にやってきます。ゴマを散りばめたような模様が名前の由来ですが、仔は白い毛におおわれており、流氷の上で外敵から身を守る保護色となっています。おびひろ動物園では4頭を飼育しており、若い個体ではプールに浮かぶ落ち葉や氷で遊ぶ様子が見られます。ハズバンダリートレーニングにより触診や爪切りを行っているため、見かけた際は静かに見守ってください。

とかちの動物
Wildlife in Tokachi

エゾリスとエゾモモンガ

おびひろ動物園の園内には、飼育しているもののほかに、野生のエゾリスやエゾモモンガが生息しています。

エゾリスは園内でもっとも頻繁に見られる野生動物で、おびひろ動物園と帯広畜産大学の共同研究で自動撮影カメラを園内に仕掛けた際も、一番よく写った動物です。おびひろ動物園では野生のエゾリスに餌付けをしていませんが、自然の餌で十分に生きることができ、繁殖もしています。

園内に設置した巣箱は、高い頻度で野生のエゾモモンガに利用されています。「モモンガ観察会」も開催され、エゾモモンガの出巣や滑空も園内で確認されています。また、おびひろ動物園と帯広畜産大学の共同研究で、飼育しているエゾモモンガの音声を調べた結果、エゾモモンガが多くの音声パターンを持つことがわかりました。

観察会で樹洞からエゾモモンガが現れるのを待つ様子

樹洞から顔を出す野生のエゾモモンガ

エゾフクロウ

フリーフライト中のエゾフクロウ

フクロウは北海道から九州まで分布する留鳥（渡りをせず、一年を通じて生息し、繁殖する鳥）です。エゾフクロウは北海道に生息する亜種で、本州以南のフクロウに比べて、淡い色合いをしています。樹洞のほか、時にはカラスやタカ類の古巣でも繁殖します。外からは隠れて見えませんが、大きな耳の穴があり、獲物であるネズミの位置をとらえます。リスやモモンガ、野鳥を襲うこともあります。おびひろ動物園の個体は、巣から落ちるなどして弱って保護された傷病鳥です。

リーフレット作成協力、資料および写真提供（五十音順）

浅利裕伸、池田隆政、石山絵理花、稲葉利行、内田健太、片桐奈月、小林紗央梨、坂本さや香、佐々木里菜、杉本美紀、高橋豊、冨川創平、中山大志、橋本早苗、藤澤美緒、松尾太郎、松本朋華、柳川久（文責）、柚原和敏

＊本冊子は「帯広畜産大学　野生生物保全管理技術養成事業」の一環として作成されました
事業について詳しくはこちら　https://www.obihiro.ac.jp/biodiversity

発行日　2023年4月29日